

対象論文「マレーシアにおける観光地として伝統的なマレー村の保全に関する研究

- マラッカのカンポンモルテンを事例として -

発表者 ROHASLINDA

講評者 1 . 曲芸

#### ■どのような研究か？

現在のマレーシアでは、国の経済の発展に伴って、歴史的市街地の保存に関する議論が多く出ている。筆者はマレーシアにおける歴史的環境保全の現行法制度を検討し、行われた保全プロジェクトを検討した。

研究対象としては、元植民地のマラッカで存在するマレー系伝統的な村落カンポンモルテンを選んだ。

#### ■何が得られていたか？

マレーシアにおける歴史的環境保全の現行法制度及び行われた保全プロジェクトを検討するために、筆者はまず歴史と建物の特徴の両方面から説明した。その中、歴史の部分はマラッカの部分とカンポンモルテンの部分をそれぞれ紹介した。それに、配置図も平面図も写真もそろっているために、非常に分かりやすい。そして、筆者はマレーシア、マラッカ、カンポンモルテンの順に逐次に現行の保全法制度を紹介して、建物の建て替え状況を説明した。

結論では

様々な保存プロジェクトによって、この村やマラッカに来る観光客が多くなり、マレー文化・村・家の伝統が世界的に分かれるようになった。残念ですが、筆者は都市の中心に位置し、マレー系村落で元々の仕事をする人の姿が見えなくなるのは一つの失敗だと思っている。

#### ■講評

筆者は調査対象の歴史をはじめ、調査対象建物の特徴、現行の保存プロジェクトなど逐次に紹介して、筋道がよくたっている。図面・写真も揃って理解しやすいです。しかしながら、この論文では歴史を述べる部分はちょっと多すぎる。それに、現行の保存プロジェクトも多くの紙面を占めた。それに対して、現行の保存プロジェクトの作用に関する分析が不十分だ。例えば、結論の部分、筆者はマレー系村落で元々の仕事をする人の姿が見えなくなるのは一つの失敗だと思っている。でも、なぜ元々の仕事をする人の姿が見えなくなる、それは現行の保存プロジェクトとどんな関係あるかは説明しなかった。歴史と現行の保存プロジェクトより、このような分析は最も大切なことだと思う。(評者/曲芸)